

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公開番号】特開2010-20078(P2010-20078A)

【公開日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-004

【出願番号】特願2008-180212(P2008-180212)

【国際特許分類】

G 0 9 G 3/30 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/08 (2006.01)

【F I】

G 0 9 G 3/30 J

G 0 9 G 3/20 6 1 1 H

G 0 9 G 3/20 6 3 2 Z

G 0 9 G 3/20 6 4 2 A

G 0 9 G 3/20 6 4 2 J

G 0 9 G 3/20 6 4 2 P

G 0 9 G 3/20 6 7 0 J

G 0 9 G 3/20 6 2 4 B

G 0 9 G 3/20 6 8 0 V

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/08

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月11日(2011.7.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

発光素子を含む複数の画素と、

外部から供給される第 1 の映像信号の積算値あるいは各画素を流れる電流量の変化から前記複数の画素それぞれの劣化特性を取得する取得手段と、

前記取得手段により取得した劣化特性に基づいて、劣化の程度が異なる画素が互いに隣接する境界部を検出する検出手段と、

前記検出手段により検出された前記境界部の周辺の複数の画素を同じ第 1 の映像信号で発光させた際に、前記境界部の周辺における発光輝度の変化が緩やかになるように、前記境界部周辺の画素に供給する前記第 1 の映像信号の補正量を算出する算出手段と、

前記算出手段により算出された補正量に基づいて前記第 1 の映像信号を第 2 の映像信号に変換する補正手段と、を有し、

前記第 2 の映像信号に基づいて前記複数の画素により映像を表示する表示装置。

【請求項 2】

前記検出手段が、各画素について隣接する画素との前記劣化特性の差分を演算すること  
を特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 3】

前記検出手段が、各画素について隣接する前記劣化特性の２階微係数を演算することを特徴とする請求項１に記載の表示装置。

【請求項４】

前記複数の画素は、赤色を発光する画素と、緑色を発光する画素と、青色を発光する画素と、を有し、

前記取得手段と、前記補正手段と、前記検出手段と、前記算出手段とは、前記赤色、緑色、青色のうち少なくとも一の色を示す複数の画素に対して設けられていることを特徴とする請求項１乃至請求項３のいずれか１項に記載の表示装置。

【請求項５】

前記取得手段と、前記補正手段と、前記検出手段と、前記算出手段とは、前記複数の画素からなる画素領域の一部に対応して設けられている請求項１乃至４のうちのいずれか１項に記載の表示装置。

【請求項６】

発光素子を含む複数の画素を有し、該複数の画素により映像を表示する表示装置の駆動方法において、

外部から供給される第１の映像信号あるいは各画素を流れる電流量の変化から前記複数の画素それぞれの劣化特性を取得する取得工程と、

取得した劣化特性に基づいて、劣化の程度が異なる画素が互いに隣接する境界部を検出する検出工程と、

検出された前記境界部の周辺の複数の画素を同じ第１の映像信号で発光させた際に、前記境界部周辺における発光輝度の変化が緩やかになるように、前記境界部周辺の前記画素に供給する前記第１の映像信号の補正量を算出する算出工程と、

算出された前記補正量に基づいて前記第１の映像信号を第２の映像信号に変換する補正工程と、前記第２の映像信号に基づいて前記複数の画素に映像を表示する表示工程と、有することを特徴とする表示装置の駆動方法。

【請求項７】

前記複数の画素のうち一部の画素は、一定の画像を表示可能な固定パターン表示領域を形成しており、

前記検出工程及び前記算出工程は、前記固定パターン表示領域に設けられた前記一部の画素に対して行われることを特徴とする請求項６に記載の表示装置の駆動方法。